

# VII.

## 職員の育成・確保

# 国内外の図書館との職員交流の取り組み

## 広島大学

### 目的・趣旨

広島大学では、事務職員の新人材育成方針を策定し、人材育成推進室を中心にFD・SD活動を推進しています。また、図書館でも、「グローバルな図書館サービス水準を目指す」ことを目標に掲げ、平成18年にフリンダース大学（オーストラリア）と図書館交流に関する協定を締結しました。フリンダース大学との職員相互研修は、図書館情報サービスの高度化に関する情報交換を第一の目的に掲げた協定に基づいています。

また、私立大学出向研修は、派遣先における大学組織運営方法等の習得や情報交換を行うことにより、成果を大学に還元することを目的としています。

### 実施内容

2006	フリンダース大学図書館長が来館し、交流協定を締結
2008.8-10	フリンダース大学図書館員の実務研修受入（3か月間）
2008.11	INUShadowingProgram 当館職員をフリンダース大学に派遣（10日間）
2009.10-12	当館職員をフリンダース大学に交換研修派遣（2か月間）
2010.2	INUShadowingProgram 当館職員をフリンダース大学に派遣（10日間）
2010.4-2011.3	国際基督教大学に当館職員を派遣（1年間）

### 実施成果

#### ◎フリンダース大学職員を受入

参考カウンター、留学生向けオリエンテーション（10回担当）を担当したほか、大学教育国際化に向けた図書館の貢献の調査研究や講演などを行いました。

#### ◎当館職員のリンドース大学への派遣

短期の2回の派遣は、それぞれ、ラーニング・コモンズと地域貢献活動に絞った調査を目的としています。長期の派遣は、留学生サービス、リエゾンライブラリアン、学生スタッフを主要テーマとし、実務体験を持つことを目的としました。それぞれ成果と貴重な体験と自信を得て、無事帰国しました。

#### ◎当館職員を国際基督教大学に派遣

1年間の派遣により、様々な種類の学生を受け入れ、リザーブブック制度等による学内連携が密で、スピーディーな意志決定が行われる様子など、国際水準の教育システムや大学運営に直接接することができ大きな成果を得ました。

### 今後の展開

フリンダース大学との一連の交換研修交流は一段落しましたが、国際交流事業や研究助成事業に応募するなど、今後も積極的に取り組みたいと考えています。

また、私立大学出向研修についても、大学の方針に基づいて職員を派遣し、人材育成とサービスの高度化に努めたいと考えています。



# 大学院「ライブラリーサイエンス専攻」における図書館(職員)の貢献

—情報専門職人材養成の新たな取り組み—

## 九州大学

### 目的・趣旨

高度情報化社会の進展や高等教育の多様化に対応した学術情報基盤の整備、大学の学習・教育・研究活動と緊密に連携したサービスの提供など、大学図書館の果たすべき機能・役割が高度化・多様化する中、それらを推進していく人材の養成は喫緊の課題です。九州大学では、この課題に対応した新たな人材養成の取り組みとして、23年4月、大学院統合新領域学府に新専攻「ライブラリーサイエンス専攻」(修士課程 定員 10名)を開設しました。

### 実施内容

専攻では、知の創造・継承活動を支える「場」(管理・提供される情報、及び知的活動を支える機能を含む)としての「ライブラリー」を科学し、ユーザーにとって真に意義のある情報の管理・提供を実現する人材を養成します。

#### 教育上の理念・目的

- 1 ユーザーのニーズと知の創造・継承プロセスを把握するための理論や技能に関する教育
- 2 図書館情報学と記録管理学を統合した一体教育
- 3 情報の管理・提供を実現するための、データエンジニアリングを含む情報通信技術の教育
- 4 電子媒体の情報も対象とした、情報法制の現状並びにその哲学に関する教育と流通制度に関する教育
- 5 これからの情報の管理・提供の在り方、知の創造・継承活動を支える「場」の新たな機能などについて探求する能力を身に付けさせる教育

これらの教育を実施するため、幅広い分野の教員が参画し教育にあたっています。

#### 養成する人材像

文系と理系の枠を超えて社会の変化に対応できる人材の育成を目指します。具体的には、アーキビスト・レコードマネジャーなど記録管理の専門家、サブジェクト・ライブラリアンなどの情報専門職、情報管理・提供組織の管理者、データエンジニアなど情報通信技術専門家、「ライブラリーサイエンス」の研究者などを想定しています。

### 実施成果

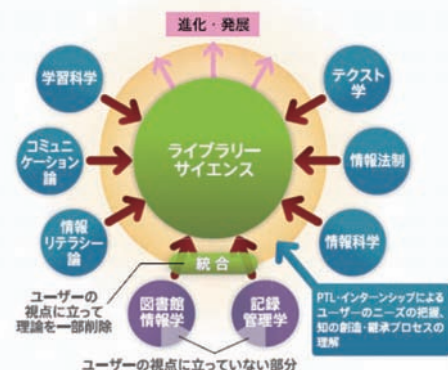
附属図書館は、専攻と密接に連携した下記のような取り組みを通じ、これからの大学図書館に求められる、学習、教育、研究に積極的に関与する学術情報の専門家としての人材の養成を始めています。

- ・図書館職員が、教員を兼務し、専攻の専任講師として直接的に教育・研究に参画する。
- ・図書館職員が、専攻の授業・演習をサポートする。
- ・図書館を専攻のフィールドワークの場として提供する(図書館の施設・資料を活用した演習、現状の図書館の課題を研究のテーマとする、等)。

### 今後の展開

本学の図書館職員は、勤務しながら平日昼間の専攻の通常カリキュラムを履修できる人事制度を整備しましたが、さらに大学間の人事交流による、本学以外の図書館職員の受入についても予定しています。大学院の長期履修制度(3年間)を活用し、在籍出向によって学位取得を目指し、取得後は在籍する図書館で中心的な役割を担う人材として活躍できる制度を実現しようとするものです。

また、優秀な専任職員を確保するためのキャリアパスの構築に向け、「図書館専門職制度(素案)」を23年3月に作成し、その実現に向けて今後さらに検討を進めていくことにしています。



# 図書・学術情報系専門員の資格認定

—専門性のある人材の確保・養成に向けた取り組み—

## 国立大学図書館協会中国四国地区協会

### 目的・趣旨

国立大学図書館協会中国四国地区協会では、従前より、専門的な能力を備えた図書館職員の確保・育成を地区の重要課題とし、様々な検討を行ってきました。

法人化に伴う各大学の独自の人事政策展開により、さらに図書館専門職員の確保・育成が困難になりかねないことから、平成 17 年度「中国四国地区図書・学術情報系職員人事交流・キャリアアップポリシー」を策定し、キャリアの指標化を図るため、平成 18 年度から「中国四国地区図書・学術情報系専門員資格認定制度」を立ち上げ、実施しています。

### 実施内容

- ・地区協会に資格認定委員会を設置し、毎年度 1 回、業績等申告書を審査し、資格認定要領に基づいて資格認定を行っています。
- ・対象者は、地区加盟 10 国立大学図書館の正規職員、申告・審査する業績等は、研修受講、講師発表、論文・報告書の発表、関連資格、業績、経験年数の 6 区分で、それぞれ公表されているポイント表により審査されます。

### 実施成果

- ・平成 18 年度以降、5 回の資格認定を行いました。その結果は以下のとおりです。
- |          |    |      |    |    |    |   |    |   |      |    |
|----------|----|------|----|----|----|---|----|---|------|----|
| H18 申請者数 | 57 | 認定者数 | 初級 | 15 | 中級 | 8 | 上級 | 2 | 認定者計 | 25 |
| H19 申請者数 | 24 | 認定者数 | 初級 | 12 | 中級 | 6 | 上級 | 0 | 認定者計 | 18 |
| H20 申請者数 | 14 | 認定者数 | 初級 | 5  | 中級 | 1 | 上級 | 1 | 認定者計 | 7  |
| H21 申請者数 | 18 | 認定者数 | 初級 | 9  | 中級 | 5 | 上級 | 0 | 認定者計 | 14 |
| H22 申請者数 | 9  | 認定者数 | 初級 | 3  | 中級 | 4 | 上級 | 0 | 認定者計 | 7  |
- ・資格取得者の名簿は中国四国地区の図書系人事担当課長会議で共有し、地区図書館職員の育成、活性化及び人事交流の参考に供しています。

### 今後の展開

大学図書館職員の専門性を高める仕組みとして、各大学の人事評価制度の中に明確に位置付けていく必要があると考えます。

(参考文献)

「大学図書館における専門職員認定制度の可能性 / 片山俊治」図書館雑誌 Vol.103 No.11 2009/11

